

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：新津図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数(所蔵調査を含む)が、2,929件から2,616件と約11%減少した。	・新館オープンからの相談件数の増加が、ある程度落ちついてきたと見られる。件数の記入は職員の手入力なので、漏れないようにする。また引き続き広報にも力を入れる。	3 大変評価する。71% 2 ある程度評価する。29% 1 評価できない。0%	・利用させていただいたことがあるが、とても丁寧に対応していただき、嬉しく思いました。 ・ある程度落ち着いたためと結果を出せるのであれば問題はないのだが、利用者のアンケートや声を調査できれば心配ない。 ・実施内容は評価されるべきと思う。特に問題なく業務が実施されていたのであれば良いと思う。 ・職員の皆様方のおかげだと思います。継続した取り組みで来館者にとって、一層有益になるようにお願いします。 ・ネットワークを活かし調査を進める迅速の裏には皆様の努力、苦労があるんですね。
	◆館の重点評価項目 レファレンスサービスのPR	・レファレンス研修の実施 ・レファレンス事例の広報	・レファレンス研修も含め昨年度より多くの人数が研修に参加した。 ・図書館だよりにレファレンス事例を掲載した。	・職員の研修は全員高い意識を持って受け、内部研修も実施した。 ・引き続き広報も行い、PRに努めていく。	3 大変評価する。100% 2 ある程度評価する。0% 1 評価できない。0%	・研修は大切です。スキルアップに期待しています。 ・実施・広報をした結果、どうなったかが重要と言える。 ・レファレンスが気軽に利用できるサービスと理解してもらえよう簡単に身近な事例から専門的な事例まで実際に受けた相談をPRに活用してはどうか。 ・研修の充実はとても良いことだと思います。これからも継続して行ってほしいです。事例を載せるのは具体的に良いと思います。 ・「レファレンス」という言葉が周知されているのか、というそもそも論も考えてみると良いのではないかと。
特色ある地域づくり	◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・郷土資料は積極的に収集・貸出している。 ・阿達夜潮音の展示を行っている。	・郷土の展示は入れ替えを実施できなかったが、今後新潟市の文化財に指定されている「真柄家文書」等の展示を計画的に行っていく。	3 大変評価する。57% 2 ある程度評価する。43% 1 評価できない。0%	・流行の小説などと違い郷土資料に興味を持つ人は少ないと思うので、展示にPRに工夫が必要だと思う。 ・郷土(新津)にはたくさんの偉人、家、資料がある。真柄家、中野家、吉田家、坂口安吾、小田喜平太など、鉄道の町、石油の町、植物の町とここ新津図書館とイメージ作りを行うとよいと思われる。 ・活動自体は評価されるべきと思うが、郷土資料に興味を持ってもらったり、地域資料を能動的に活用する工夫を増やしても良いと思う。 ・地域の図書館として特に力を入れて欲しい。市民はもちろんであるが、小学校で郷土を学ぶ際にも大きな役割を担っている。 ・PRに力を入れ、市民にアピールをお願いします。 ・資料を充実していくことは大変な分野ではないですか。
	◆館の重点評価項目 新津図書館郷土資料のホームページ公開	・新津図書館の郷土資料(古地図)のデジタルデータの図書館ホームページ公開	・昨年に引き続き新潟県立図書館の「越後・佐渡デジタルライブラリー」事業に参加し、県立図書館のホームページから古地図が閲覧できる。 ・新潟市の図書館ホームページからも「新潟図書館デジタル・アーカイブ」をアップし、古地図等を閲覧できるようにした。	・今後の引き続きホームページへのアップを行い閲覧できる資料の数を増やしていく。 ・広報も行い、PRに努めていく。	3 大変評価する。71% 2 ある程度評価する。29% 1 評価できない。0%	・まだまだ室の山積みです。ホームページへのアップ、楽しみにしています。 ・これでスペースを広げて何かに活用できたらさらに良いと思う。単なるPRでは利用者が増えないのでそこが重要だと思う。 ・デジタルコンテンツの充実を図ることで、閲覧者数を増やし、来館者数や貸出冊数の増加につなげることができる。一層の充実をお願いしたい。 ・自分自身にかかわった地域の古地図見てみたいです。 ・webサイトにアップしただけで満足してはいけなかと考える。
子どもの読書活動	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。事業の充実を図るため、3歳児健診会場でアンケートを実施するなど、今までのブックスタート事業の検証を行う。	・ブックスタート事業 6,215人に実施、参加率94.8% (暫定値) ・ブックスタートアンケートを3歳児健診会場で8月から10月の3か月間実施し、対象者(1,581人)の84%(1,329人)から回答を得た。アンケートの結果、「ブックスタートが子どもに絵本を読んであげるきっかけになった」という回答が57%あった。	・ブックスタートが乳幼児期の読書活動の働きかけとして、大きな役割を果たしていることが確認できた。 ・一方で図書館を利用する親子は半数に満たなかった。今後も「赤ちゃんタイム」など、子育て世代が気軽に利用できるようPRを継続する。 ・こどもとしょかん内に「子育て支援コーナー」を新設し、子どもや保護者への支援に努めた。	3 大変評価する。100% 2 ある程度評価する。0% 1 評価できない。0%	・ブックスタート後、3歳児検診でアンケートを実施することは、とてもいいことだと思う。 ・本が好きになるかどうかは、幼少期の本との出会いが大きいと思っている。赤ちゃんの時から親子で楽しめる企画をこれからもお願いしたいと思う。学童で職場体験をさせていただいた。バックヤードにも入れていただき、子どもたちは緊張を持ち、取り組むことができた良い体験をさせていただいた。 ・まだまだ図書館は静かにする場所。子どもは騒ぐので行けないと思われる。積極的に働きかけをお願いします。ブックスタート参加者84%は嬉しいことだ。興味、関心度は高いと思われる。 ・当図書館の強みなり得る部分と考えられるため、区外の人も来たくするようなサービスを提供するように強化しても良いのではないかと。 ・大きな結果があがっていると考えられる事業である。多面的検証を通して、一層の充実を図るようにする。 ・子連れに優しいと図書館を目指して行ってほしいです。 ・乳幼児さんを対象としたときは他の来館者さんへの気遣いで大変なんです。でも子育て世代には有難い企画なんです。 ・意義のある取組みをどう次につなげるかがポイントかと。
	◆館の重点評価項目 学校、保育園・幼稚園等への支援	・職場体験の受入れ、施設見学の受け入れを継続して行う。	・小学校の施設見学4校を受入した。 ・中学校の職場体験3校を受入した。 ・その他2園の読み聞かせや貸出、学童保育の子どもたちの見学や貸出体験などを実施した。	・今後も継続するとともに、学・社・民の融合のため施設見学や読み聞かせの受け入れを積極的に行う。	3 大変評価する。57% 2 ある程度評価する。43% 1 評価できない。0%	・積極的な働きかけを期待している。 ・図書館からの提案であれば素晴らしいと思う。施設見学などは目新しい取り組みややり方を導入して結果につなげることが重要だと思う。 ・小中学校にどのような活動ができるのか、どのような力がつく期待できるのかなどを広報してはどうか。 ・図書館という施設の役割、仕組みを子供なりに勉強できるわけですね。 ・限られたスタッフで対応するのは大変なことと推察するが、次の世代に図書館を意識させる大切な事業。やり方を工夫して更なる受入を。
市民参加と協働	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・季節に合わせたイベントを実施した。 ・ボランティアと連携し、区内の希望する園を訪問、未就園児の親子への読み聞かせを実施した。	・行政書士無料相談会などの共催事業やボランティアグループと連携した児童向けの事業を継続して行う。 ・公民館等とも連携・協力し事業を拡げていく。	3 大変評価する。14% 2 ある程度評価する。86% 1 評価できない。0%	・ボランティアの役割は大きなものがあると思う。ボランティアの活動が分かるチラシなど、どんどん紹介してほしいと思う。 ・期待している。 ・新しい取り組みを行うことは非常に重要と言えるが、参加者数、目的の達成状況などを確認し、改善して次の新しい企画につなげていけたら良いと思う。結果を出すことが重要と言える。 ・多くの人が関わることができる事業に注力することで市民との一層の協働を推進することができる。 ・以前図書館の方にも言ったのですが、小須戸地区図書室がまちセンの中で孤立しているように思えます。確かに管轄は違うのですが、もう少しまちセンと協働しても良いのでは？まちセンでイベントをしていても、図書室だけは全く別空間、関係ないという感じ。イベントに関連付けた本の展示をするなど、もっと親しみやすい図書室になってほしいと思います。 ・色々連携していくことはとてもいいですが、相互間での調整など大変な面もあるのではないですか。でも図書館が、身近に感じる要因の一つになるのではないですか。
	◆館の重点評価項目 ボランティア、図書館関連団体との連携強化	・市民のボランティア活動が継続できるよう、支援や情報提供をおこなう。	・読み聞かせボランティア養成講座ステップアップ編として、講演会を実施した。 ・3月に読み聞かせボランティアグループ情報交換会を実施した。 ・3月に図書館懇談会を実施した。	・読み聞かせボランティアグループ情報交換会は他のグループの状況を聞く会となっており、定着している。 ・図書館懇談会は参加者3人と少なかったが、今までにない貴重な機会であった。	3 大変評価する。57% 2 ある程度評価する。43% 1 評価できない。0%	・図書館懇談会の参加者が3人と少なかったのは残念だが、今後も続けて行ってほしい。 ・期待している。参加型が一番早く理解や協力を得られる方法だと思う。公募が広すぎると目的が分かりづらくなるように思う。 ・実施した結果が重要である。上映会も懇談会もイベントも展示もどれだけの人が来て、どのような効果につながったか、実施がゴールではなく、結果から逆算した実施が望まれる。 ・パートナーシップ型図書館の具現のためには様々な立場の人のニーズを把握し、すり合わせていくことが重要である。懇談会の参加者を増やし、様々な立場の方から意見を聞けるようにしていく。 ・興味のある企画など参加できなくともそれに関する本を探して読んでみたいですね。 ・待つだけではなく、出ていくことも考えてはどうか。